

平成23年度 事業報告

当会が成立以来継続している「ヤゴ救出作戦」は10年目になり、今年は2箇所で行い561人の参加があった。

「水辺の教室」「身近な植物観察会」も各1回ずつ実施できた。

観察会のため作成した「外来植物啓発紙芝居(インベーダーとじゃぱんわいど)」は活動報告ビデオで紹介され、アフター5インくだまつ講座でも好評で、今後の環境教育での利用を打診されている。活動報告ビデオはYouTube・ホームページで公表している。

「公園愛護クラブ(西緑地公園保全)活動」は月1回の作業を実施した。

雨天も多かったが、11月の樹木の剪定には企業のボランティアの参加があった。

「モリアオガエル生息地保全」「地域在来植生保全」「外来植物侵入状況調査」

は適時また継続的に実施している。

いろはす地元の水応援プロジェクトに採択されたので、「川と田んぼの生きもの調査」「インベーダーやっつけ隊」(外来植物防除作業)「生きものマーク研究会」を計画実施した。(採択額28万円)

生物多様性セミナーに参加したことで、農林水産省とへのアプローチの道筋や「生きものマーク」を活用する方針ができ、これからの事業発展を図るきっかけとなった。

「環境関連カフェ」は12月から開催しているが、これまでの環境省との繋がりからの「環境省ESDコーディネーター養成講座」に参加して得たESDの視点も考慮したい。

小水力発電開発支援セミナーなどを活用し、今後の持続可能なエネルギーについても検討していく。

アースデイ瀬戸内2012・自然共生ネットワークなど関係機関・団体との協働を進め、当会の活動の発展につなげていくため、今後も機会があれば積極的に参加していく。

活動資金に関しては、本年度も助成金収入が少なかったため、寄付金の依存度が高かった。

現段階では活動資金を獲得するための助成金は必要と考えられるが、寄付などももっと受けられるようホームページなどで活動の周知を図っていく。

現在は生物多様性保全や外来種対策のための資金の流れが少ない状況である。

他団体を含め活動の資金を獲得する流れの現状を変える「システム」を構築するために、検討する研究会を立ち上げられたのは今までの長年の成果である。

来年度以降もそれぞれの活動を発展させ、継続していきたい。